漁業という職業を選んで
～都会からの漁業者１年生～

穴水北部漁業協同組合
穴水町前波大敷網組合
渡　部　達　也

１．地域と漁業の概要

私の住んでいる穴水町は、能登半島のほぼ中央に位置する、人口12,000人ほどの町である。町の産業としては、林業や農業、漁業が盛んであるが、最近では星がきれいに見える星空の町としてや、四季を通した料理が味わえる「まいもん祭り」の開催などで、観光にも力を入れている。

私の所属する漁協は、穴水町の北東部（図－１参照）に位置する正組合員９０名、准組合員２０名の小さな漁協である。漁業種類は定置網漁業が盛んで、組合員の殆どが従事している。漁場は、日本海の荒波で知られる外浦海域とは異なり、一年を通して波の穏やかな日が多く、周辺には大小多くの定置網が存在するため、定置銀座などと呼ばれることもある。主な漁獲物はブリやサバ、アジ、イワシ類、スルメイカなどで、平成９年の漁獲量は約１千トン、漁獲金額にして約４億円であった。（図－２参照）

２．組織の概要

私の所属する前波大敷網組合は、県内でも有数の定置網で、昭和３６年に組合が設立され、当初は１ヵ統のみで操業されていたが、平成８年に１ヵ統増設され、現在の２ヵ統での操業形態となった。現在の組合員数は乗組員、運転手等を含め２５名で、地元の前波在住者をはじめ、周辺の内浦町や能都町の人達などで構成されている。

年齢構成は５０歳以上が大半を占め、３０歳未満では私だけであるため、若手労働力の確保が急務となっている。

３．漁業者となるまでの経緯

私は大阪府の堺市で生まれ、普通の高校を卒業した。以前から漠然と海に興味があり、海から連想される職業として漁業が浮かんだ訳である。

しかし、漁業に就業するためにはどうすればよいのかわからず、とりあえず堺市内の職業安定所に相談に行った。堺市の職業安定所でも漁業に関しての求人情報はなく、安定所の方も困惑されていたが、それでも色々と情報を収集して下さった結果、石川県穴水町の職業安定所で漁業に関する求人があることを知った。

ところで、これは組合長さんに後になって聞いたことであるが、定置網の就業者の確保

は従来は人伝でおこなっていたそうだが、先ほど申し上げたように、平成８年に２ヵ統に増設した結果、水揚げ量が安定し、それに伴って就業者の就労条件も改善され、職業安定所に求人票を提出できるまでになったとのことである。

そして、こうした求人情報の提供もあって、近年若い人が「漁業に就きたい」と尋ねて来ることがたびたびあり、定置網に乗船してもらっていたそうであるが、残念ながら厳しい就労環境に負けるのか、ひどいときには１日でやめていったそうである。

おそらく、私が組合長さんにお会いした時も、大きな期待を持っていなかったのではないかと思う。また、定置網の仲間の皆さんも同じ思いで、いつまで続くのか、いつ大阪に舞い戻るのか、と興味深げに見つめていたのではないかと思う。

４．実践活動の状況

就業当初は、現在行われている新規就業希望者を対象とした体験乗船等がなく、面接で仕事内容の説明を受けるだけであった。そのため、大阪から来て翌日に乗船したので多少の不安もあったが、初めての出漁では波の穏やかな日であったこともあり、船酔いなどはなかったものの、先輩漁業者との言葉の違いや網の呼び名などがわからずに苦労した。さらに、慣れない仕事で要領もわからなかったことから、網を起こす際に力の入れ加減がわからず、就業して１ヶ月ほどは腕の筋肉痛がとれなかったのを憶えている。

現在の仕事は、朝４時３０分に出漁して網を起こし、７時頃には入港する。その後、選別作業を行い、トラックで七尾公設市場や県漁連金沢港市場へ運び、午後からは網の修理や雑用を行い、明日の操業に備える。就業する以前の理想とは違い、実際に漁に出てみて厳しい仕事が多いが、漁師を今まで続けてこれた理由の一つは、魚が獲れた時の喜びだと思う。

就業して半年が過ぎた一昨年の１２月に、現在まで漁師を続けられる活力となる出来事があった。冬の水揚げの重要な位置を占めるブリが大量に獲れたことである。それまで、周辺の定置網に獲れてはいたが、私たちの網にまとまった量の水揚げはなかった。それが１日の漁獲金額だけで１億円を超える水揚げがあり、ブリが水面から盛り上がるほど見えたときは網を上げる重さも忘れて、夢中で引き上げた。仕事が終わった後は、疲労感はあったが今までにないほど、獲れたときの感動や達成感があったことを鮮明に憶えている。後で先輩漁業者から、このような経験は長く漁師をしていてもめったにできることではない、と聞かされ、漁業を続ける楽しさがわかった気がした。

そして今では、たまに大阪に帰郷し、友人と語り合ったりする時でも、以前のように明け方近くまで寝ずに過ごすことなどとても出来ないほど、私の体は定置網漁業に対応していることを感じている。

漁業以外では、組合長の薦めもあり、地域の青年団にも所属している。青年団の活動は地域に若い方が少ないこともあり、祭りの準備や後片づけ、小学校の運動会の手伝い、地域イベントの参加、夏に行う地区内の消毒作業にまで及ぶ。これまで様々な地域活動に参加したことで、地域の方とも交流を持つことができ、自然にとけ込むことが出来た。

５．波及効果

現在、全国的に後継者不足が問題となっているが、私が就業する以前の組合は若い漁業者が定着せず、年齢構成はすべてが５０代以上で構成されていた。そのため、漁業技術の継承にも不安がもたれていた。私のような県外からの就業者が定着したことで、組合も県外からの雇用を積極的に考え、今後就業者が定着する環境づくりを目指すようになった。具体的には今年度中に漁具倉庫兼用の乗組員休憩施設の建設があり、将来的には乗組員専用の住宅建設が計画されている。このような取り組みの中で、若い労働力が定着していくことが、今後の漁村及び地域の活性化につながっていくものと思っている。

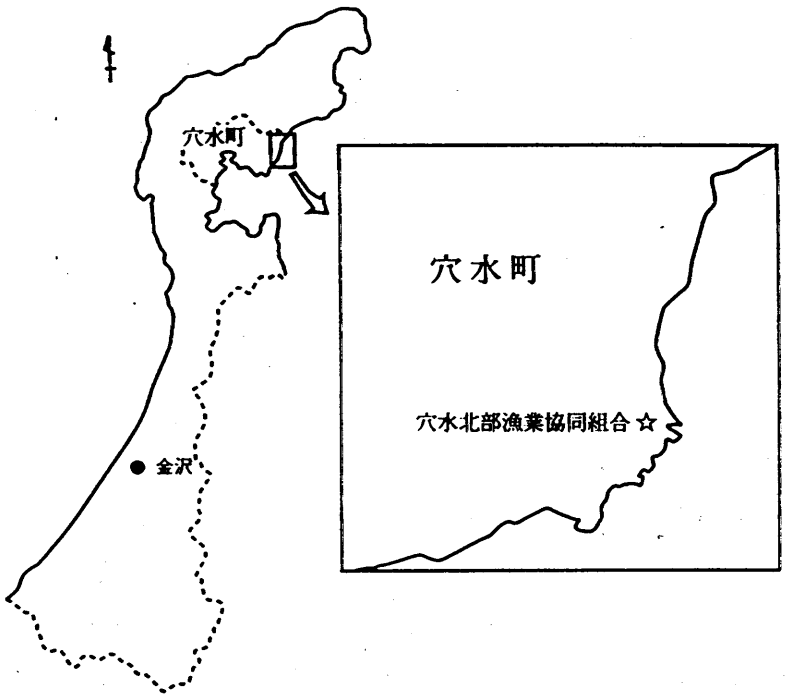
６．今後の課題

組合も、これまでの古い習慣を守るだけでなく、合理的な経営を目指すことが、若手就業者の確保に必要不可欠ではないかと思う。それには乗組員の待遇面も改善し、安心して働ける職場づくりをしていただきたいと思う。

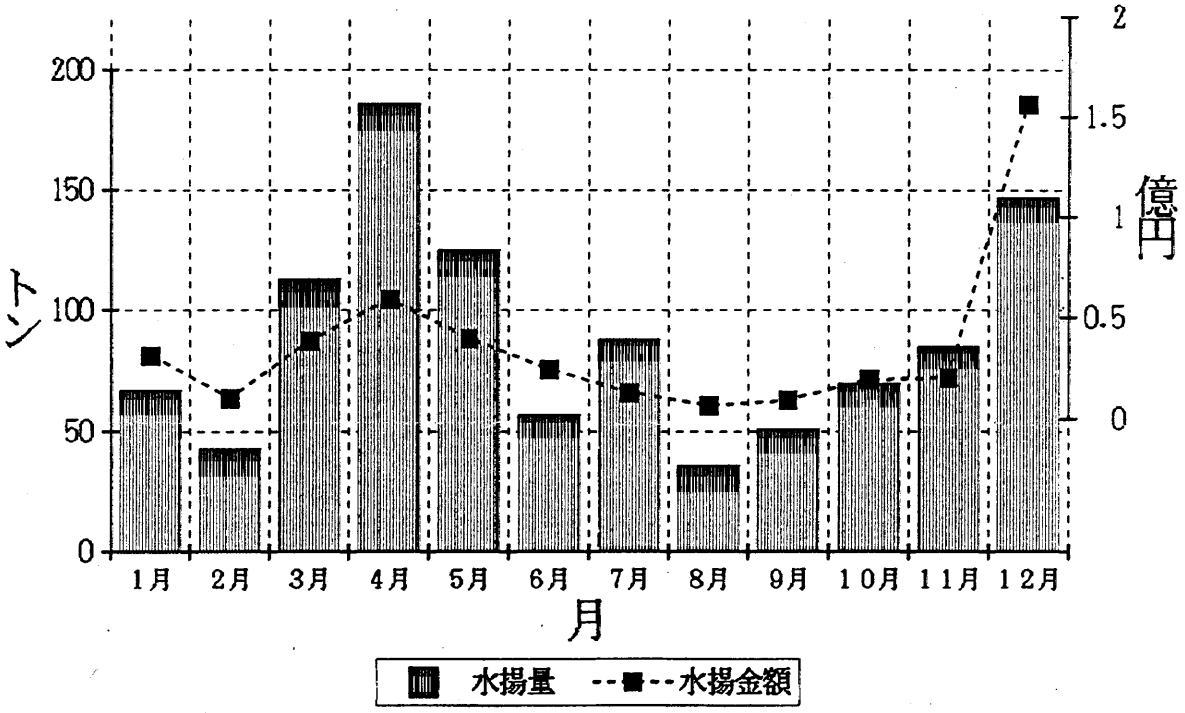
前にもふれたように、私は都会で育ち、漁業の知識や経験がなかったので、漁師となった今でも他の漁業はもちろんのこと、他の地域で行われている定置網漁業についても、あまり知らない。そのため、今後は後継者として漁業技術の習得を目指すとともに、他地区の漁業者との交流も深めていきたいと考えている。

例えば、私の所属する前波定置網は富山湾に面する内浦海域の定置網であるが、環境の異なる外浦海域の定置網はどういう仕組みであるのか、どのような魚が獲れるのか、など大変興味があり、一度体験乗船等ができればと思っている。

最後に、都会の生活しか知らなかった私が能登へ来て生活していくには、不安もあったが、組合長や船頭をはじめ地域の人達の暖かい励ましがあり、ここまでやってこれたことに感謝を申し上げたい。



図－1　位置図



図－2　月別の漁獲量及び金額